

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	トライアングル		
○保護者評価実施期間	R8年1月19日		R8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	R8年1月20日		R8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ルームをエリア分けすることによって(体を動かすエリア・机の上に過ごすエリア・おままごとなど玩具を使用して床に座って遊ぶエリアなど)十分なスペースを設けている。	・マットや机の配置により視覚的にエリアが分かるようにしている。 ・言葉で思いを伝えられない利用者へも自らの自己決定を促せるよう玩具の写真を貼ったりして工夫している。	・利用者の特性に合わせて都度、配置や環境の見直しを図る。
2	・曜日や利用者の特性に合わせて、その日の活動内容を工夫し固定化しないようにしている。 ・5領域に沿って活動を組み、偏りがないようにしている。	・1人の指導員だけではなくチーム全体で協力しながら活動を展開し、誰がどの役を行うかなど事前準備に務めている。	・特性に合わせて同じ活動であっても内容を工夫するなど個々に寄り添う支援に務める。
3	・連絡ツールであるHUGを利用して保護者様と細かなやりとりや情報の共有を行うことで安心して預けて頂けている。	・当日の活動の様子を添付し、個別に様子を伝える事で安心して頂けるように工夫している。 ・保護者様からの連絡・相談には迅速に対応するように務めている。	・写真の撮り方に関して表情や仕草がより詳しく伝わるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ルームの床が固く、転倒した際に怪我に繋がる恐れがある。	・床下がコンクリートであり、車椅子に特化したフロ어링であるため。	・ルーム内のお約束を視覚化し、走らないなどの工夫をしている。 ・厚めのジョイントマットを敷き詰め、マットの上で座って遊べるように伝える。
2	・多機能型事業所であるため、トイレの数が足りていないと感じる時がある。 ・トイレに入る際に小さな段差がある。(バリアフリー化されていない) ・ルームから離れたところにトイレがあるため、トイレ利用時に介助を必要としない利用者へも付き添いがあるため、ルーム内の指導員の数が手薄になることがある。	・トイレが少ない(増設が不可) ・多機能型事業所である為、利用時間が被っている。	・多機能事業所内で連携を取り、トイレを工夫して使用している。
3	・地域との交流が少ない	・活動時はルーム内で行うことが多く、隣の事業所との交流もない。	・長期休みを利用して、積極的に公園など公共の場に出かける事で社会との繋がりを体験する。 ・お買い物体験を行いながら社会性を学ぶ。